

世界初の浮体式洋上ウィンドファームへの挑戦



東京大学

大学院工学系研究科 教授

石原 孟

[講演内容]

今、風力発電は、土地の制約が少なく、大規模化が容易な洋上風力発電へ大きく舵を切っている。そのような中、世界でもまだ新しい技術である浮体式洋上風力発電への挑戦について、技術的内容を踏まえながら、今後の展望について紹介する。

[講演者プロフィール]

1992年3月、東京工業大学理工学研究科 土木工学専攻博士課程修了。清水建設(株)・技術研究所を経て、2000年4月に東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻助教授、2008年4月に教授、現在に至る。長大橋をはじめ、電力システム、交通システムにおける耐風設計の研究に従事するとともに、風力エネルギー利用のための賦存量評価、風力発電量のリアルタイム予測、風力発電設備の耐風・耐震設計、着床式・浮体式洋上風力発電システムの開発等に従事。NEDO 洋上風力発電等技術研究開発のプロジェクト・リーダー、経済産業省浮体式洋上ウィンドファーム実証研究事業のテクニカルアドバイザーを務め、国内初の外洋における着床式洋上風力発電所および世界初の浮体式洋上ウィンドファームを実現。